

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 4 2	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳) Regular alcohol consumption improves insulin resistance in healthy Japanese men independent of obesity. 健康な日本人男性での常習飲酒は肥満度とは関係なくインスリン抵抗性を改善する	
執筆者 Fueki Y, Miida T, Wardaningsih E, Ito M, Nakamura A, Takahashi A, Hanyu O, Tsuda A, Saito H, Hama H, Okada M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Clin Chim Acta. 382(1-2):71-76 (2007)	
キーワード アルコール、インスリン抵抗性、肥満、常習飲酒	
要 旨 背景： アルコール消費とインスリン抵抗性との関連については多くの論争がある。両者の関連性について、さらに混乱させている要因は肥満の存在である。本研究の目的は、健康な日本人男性で、常習飲酒がインスリン抵抗性を改善するかどうか、両者の関連性に肥満が影響しているかどうかについて明らかにすることである。	
方法： 健康診断を受診した年齢 24～87 歳の男性、1,029 名について解析した。被験者は肥満無し (BMI < 25 kg/m ²) と肥満 (BMI ≥ 25 kg/m ²) とに分類され、さらに非常習飲酒者 (NRD)、中等度飲酒者 (MD ; 1-6 日/週)、常習飲酒者 (DD ; 7 日/週) に分類された。分類した各グループについて、ホメオスターシスモデル (HOMA-IR) で評価したインスリン抵抗性と他の心疾患危険因子を比較した。	
結果： 非肥満と肥満の両方のグループで、アルコール摂取は用量依存的に HOMA-IR を低下させた。肥満と非肥満を比較すると、飲酒状態に関わらず、肥満男性の方が HOMA-IR は 2 倍高かった。結果を年齢、BMI、収縮期血圧、喫煙状況、LDL-コレステロール、HDL-コレステロール、肝機能などで補正して得られたロジスティック回帰解析は、アルコール消費は HOMA-IR に対して独立した防御因子であることを示した。	
結論： 健康日本人男性での常習飲酒は肥満とは無関係にインスリン抵抗性を改善する。	